

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第二十九話

「新冠の石灰岩鉱床」(要約文)

岩清水地区の奥地の岩壁に、石灰岩鉱床があることが確認されています。

新冠町の地質は、大きく分けて泉地区を境に概ね2つに分けることができます。海岸部は新世代といわれる比較的新しい地質、そして奥地の方は古生代や中生代といった古い地質に属します。岩清水の奥地には、石灰岩に囲まれた場所が多数確認できます。多くは、太古の昔に貝類やサンゴの死骸が堆積してできたものと考えられています。幌尻岳などの登山の折に、白っぽい岩盤が露頭しているのを目にしたことがあるかもしれません。色は灰白色をしており、この石灰岩が熱の作用を受けて白色に変化したのが大理石です。石灰岩で形成されているのが、雨水や地下水によって浸食されてできた洞窟を鍾乳洞といいます。石灰岩はセメントの原料にもなり、消石灰や肥料等の土壌改良剤、またガラスや白色の顔料、製鉄にも使われます。

新冠では、昭和30年代にこの石灰岩鉱床についての詳しい調査を行った経緯があります。大きく4つの鉱体に分けて報告されています。これら石灰岩鉱床の鉱量は、推

定で8220万トンにもものぼるとされ、さらにその品質はきわめて高品位なものであると記されています。この記録の最後には、セメント工業をするに十分な鉱床であると明記されています。しかし、この石灰岩鉱床を利用した工業は実現されませんでした。あまりにも奥地にあるため、大規模な開発を行うのに困難な場所であったためと考えられます。

石灰岩を産する場所には、しばしば「鍾乳洞」が確認される場合があることから、平成20年に鍾乳洞を探す取組みを行ったことがありました。役場職員や商工会青年部、山岳会のメンバーを交えての探検でしたが、残念ながら簡易的な調査では見つかることができませんでした。

ところで、ある人から聞いた話ですが、山日高の山間に鍾乳洞があったという「言い伝え」があるとのこと…。もしかしたら穴が新冠の方とつながっているのかもしれない。ロマンあふれるお話しに夢が膨らみます。



平成20年の探検隊による鍾乳洞探し
石灰岩の露頭を望む

住宅用火災警報器を設置しましょう

- ・火災から大切な家族の命を守るため
- ・自分自身の命を守るため
- ・地域の安心・安全を守るため

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
10月	1件 (0件)	29件 (20件)
2年1～10月	2件 (4件)	226件 (276件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
10月	1件 (1件)	0人 (0人)	1人 (2人)
2年1～10月	2件 (7件)	0人 (0人)	2人 (9人)

人のうごき

(10月末現在)

人口 5,401人 (前月比 + 5人)
 男 2,646人 (前月比 + 4人)
 女 2,755人 (前月比 + 1人)
 世帯 2,747世帯 (前月比 + 3世帯)